

広報

班宛

NO 20

3月29日23時34分

FAX 送付状

枚数 (表紙含む) 6 枚

ERC プラント班 FAX: [REDACTED]

←東電内保安院分室 [REDACTED]

件名

テポロ フォルスマ

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成23年3月29日（火）11:40～12:45

場所：東京電力本館1階101AB会議室

先方：記者約65名（カメラ7台）

当方：原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて【3月29日午前9時現在】
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第一原子力発電所モニタリング結果（過搬型MP）

質疑：

【溜まり水関連】

Q. タービン建屋の溜まり水の処理の現状はどうか。

A. 1号機については、回収を継続している段階であるが、水位の変動については確認がとれていない状況。2・3号機については、現在検討している段階であり、先行きは決まっていない。

Q. トレンチの溜まり水の処理の状況は。

A. 現時点でお示しできる状況にない

SQ. 原子力安全・保安院の話では、1号機のトレンチ内の溜まり水の水位が下がっているとの話もあるが状況はどうか。

SA. 1号機については、若干下がっているとの話もあるが、確認できていない。

SQ. トレンチの水の水位を確認した時間は。

SA. 具体的には把握していない。

Q. トレンチの水量はどうか

A. 1号機が3,100m³、2号機が6,000m³、3号機が4,200m³程度である。

Q. トレンチとタービン建屋の溜まり水の排水について、どのように実施していくのか。

A. 現在タービン建屋の排水を行っているのは1号機のみであり、2・3号機については検討している段階である。今後の排水については、トレンチとタービン建屋の溜まり水の状況を判断して検討してまいりたい。

Q. 1号機のタービン建屋とトレンチの溜まり水の関連性は。

A. 因果については現時点では何ともいえない。

Q. トレンチの形は。

A. 各号機によって異なる。トレンチ内の水量は、トレンチの長さで断面積から判断している。

Q. 今後の溜まり水の排水の作業について、トレンチとタービン建屋の貫通部分の高さと溜まり水の水位を考慮した作業になるのか。

A. 貫通部分が水位より低ければ同時に作業することになると思われる。トレンチの状況は、1号機の水位がギリギリのラインであり、海への流出が起らないよう作業を進めてまいりたい。

Q. サプレッションプール水サージタンクの状況についてどうか。

A. 福島第一原子力発電所には、3,400m³のタンクが2基、3,500m³のタンクが1基あるが、3500m³（5・6号機側）は津波の影響を受けている。

Q. 排水を実施している1号機のタービン建屋の排水量についてどうか。また水位との関連は。

A. ポンプの台数が作業途中で増えていることから、現時点では総量について確認できていない。タービン建屋内に目印を設置したところ、若干の低下傾向であることは確認している。

SQ. ポンプの台数の変化は。

SA. 当初は1系統2台のポンプであったが、現在は3系統6台である。

Q. 溜まり水の経路は判明したのか。

A. 現時点では調査中。

SQ. 経路の判定を阻んでいるものは何か。

SA. 線量が高いことが挙げられる。タービン建屋内の水量が減少すれば線量が減少すると考えられるため、溜まり水の排出作業後に調査してまいりたい。

Q. トレンチ内の溜まり水について、タービン建屋以外からの流入の可能性はあるのか。

A. 線量の結果や整理したデータ等をもとに判断してまいりたい。

Q. タービン建屋地下1階での作業は、溜まり水の排出以外行っているものはあるのか。

A. 地下に水がたまっている部分については作業を中断している段階であり、水がない部分については電源復旧の工事を行っている状況である。

Q. トレンチが11あるとの話があるがどうか。

A. 海側と山側を合計すると11あるかと思うが、確認する。

Q. 縦坑の線量の確認は、海側と山側どちらで測定したものか。

A. 海側。

- SQ. 建屋に近い場所では、もっと線量が高いか。
SA. わからない。

【現在の作業状況】

- Q. タービン建屋の地下は、水があっても線量が低ければ作業を行うことはできるのか。
A. 地下1階の作業については、現在行っていない。

その他の作業状況は、次のとおり。

- ・ 1号機：125 ボルト直流電源作業中。本日、分電盤の受電予定。
構内PHSの電源の一部が復旧。その他、設備調査中。
- ・ 2号機：1号機との渡り線の接続については、資材の手配待ち。
現在、設備調査中。
- ・ 3号機：補器および125 ボルト直流電源の健全性確認中。
- ・ 4号機：設備調査中。中操照明用ケーブルの敷設中。
- ・ 5・6号機：現場調査中。電源用パネルのあるスペースの清掃中。

注水状況は次のとおり。

<原子炉>

- 1号機：純水タンクから淡水注入中(本日 8:30)仮設電動ポンプへの切り替え実施。

<プール>

- ・ 2号機：ポンプ車による海水注入中。仮設電動ポンプによる淡水注入をするため、本日午前中に試運転予定。
- ・ 3、4号機：淡水注入ラインに切り替え済み。今後は淡水の放水を予定しているが、本日の実施については未定。
- ・ 1号機：淡水注入ラインに切り替え済みだが、注入は行っていない。今後の注入を注水ラインで行うかコンクリート圧送車で行うかは調整中。

【プルトニウム関連】

- Q. 原子力安全・保安院の西山審議官から「炉心の損傷の可能性がある」との見解が示されたが、東電としてどのように考えているのか。
A. プルトニウムの成分から判断すると、核分裂に起因するものであり、燃料損傷の可能性については否定できない。

SQ. プルトニウムが検出されていることについて、燃料棒が破損しているのか。

SA. 1～3号機について、炉内の水位が低い状況が継続していた経緯を勘案すると、燃料が破損している可能性については否定できない。

Q. 検出されたプルトニウムの人体への影響についてはどうか。

A. 核実験時に降ってくるレベルと同じであり、現時点では影響はないレベル。

Q. 検出されたプルトニウムの空気中での影響は。

A. プルトニウムは α 線を放出するため、今回は土壌を調査している。 α 線は体内に取り込んだ際に影響があるが、紙一枚でも防げるようなものであり、空気中での影響は小さいと考えられるため、ただちに健康被害がおこるものではないと考えている。

SQ. 今後さらに広範囲に調査していく必要があるのではないか。

SA. 今後3カ所で計測していく予定であり、大気中の影響についても検討してまいる。

Q. プルトニウムの分析を構外で実施しないのはなぜか。

A. 昨日の5地点での分析により、距離による影響を見た。今後は、方向の違う3地点において、週に2回実施する。また空気中濃度の測定についても検討しているところ。その結果を見てその後の対応を検討する。

Q. プルトニウムの分析を構外で実施しない理由を改めて聞きたい。また、トレンチのたまり水のアルファ核種分析を実施しない理由は。

A. 今後は、方向の違う3地点において、週に2回実施する。また空気中濃度の測定についても検討しているところ。その結果を見てその後の対応を検討する。

【その他】

Q. 1号機について、現時点でベントは必要な状況なのか。

A. 1号機の圧力は上昇しているが、原子炉に注水している流量を113ℓ/分であったものを、現時点では141ℓ/分に上昇させたところ、炉内の温度も低下傾向にあるため、今後の動向を注視してまいりたい。

Q. 燃料が大きく損傷していないと考える根拠はなにか。

A. 確認できているパラメータが、現状落ち着いてきている。まだ、崩壊熱による発熱はあるが、注水により炉内の温度も低下してきている。

Q. パラメータの信頼性については、疑問があるのではないか。

A. 確認できるパラメータは徐々に増えつつある中、炉内の温度は注水により低下傾向にあり、パラメータとして相応の信頼性があると考えている。

Q. フランスへの支援の要請について事実関係は。

A. 現在確認中。

以上

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 3 月 29 日 (火) 15:00~15:30

場所：東京電力本館 1 階 101AB 会議室

先方：記者約 65 名 (カメラ 7 台)

当方：原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第八報)
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第九報)
- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第七報) の一部訂正について

質疑：

Q. 福島第一原子力発電所の近海での放射性物質の量が横ばいであり、遠くの放射性物質の量が増加していることに対する評価は。

A. 当初は福島第一原子力発電所の南側の数値が高かったが、数値が高い海域が変わっているということから、移動していると推察される。

Q. 放射性物質が検出される海域が広がってきているが、発電所から海に新たに流入したものはあるのか。

A. 新たな流入がないとは言い切れないが、データを見る限り、濃度が高いものが出続けているとも言えない。

Q. I-132 について、配布された表にゼロと記載されている部分と、記載自体されていない部分があるが、その理由は何か。

A. ゼロと記載されているものは、有効数字の関係でゼロとなっているもので、記載自体されていないものは、検出下限未満のものである。

Q. I-132 について、半減期が 2 時間と短いにもかかわらず、現在も検出されているということは、炉内で核分裂が継続しているということではないのか。

A. I-132 の半減期は 2 時間であるが、2 時間で半減するものの、2 時間で無くなるものではない。また $T e - 132$ (半減期約 3 日) が β 崩壊することにより、約半数が I-132 になるなど、時間の経過とともに生成されることもある。

Q. トレンチの水はまだ溢れてはいないのか。

A. 現時点では水位に変動はないと聞いている。新しい事実が判明したら適宜お知らせさせていただく。

以上